

# 年度末報告会にあたって

## ハイライト：

- ・年度末報告会は、次のようにすすめます。(次第)
- ・年度末報告会をもとに、授業改善の進化を(ねらい) ※確認
- ・具体的な子どもの姿と手だてを発信(内容)
- ・久原小学校ならではのバージョン
- ・平成24年度の研究テーマは、子どもの目の輝き

## 年度末報告会は、次のように進めます。(次第)

### 【年度末報告会】

2月28日(火) 15:15~16:40  
於：軽運動室  
司会(安部) 記録(松原)

- 中間報告会意義：井上(5分)
- 実践報告①：低学年(7分)  
協議(7分) ※報告(柴田)
- 実践報告②：中学年(7分)  
協議(7分) ※報告(植田)
- 実践報告③：高学年(7分)  
協議(7分) ※報告(安部)
- 全体総括：井上(5分)
- 指導・助言  
安部指導主事【授業】(10分)  
山崎教頭先生【組織】(10分)  
田村先生【全体】(10分)

年度末報告会は、左記のように進めていきます。

各部会が2学期以降の実践を報告し、その内容を全体で協議していくことで、チームでの運営の在り方と授業づくりについての成果と課題を明らかにしていきます。

また、実践報告を聞く中で、理解ができない点や曖昧な点があれば、質問や意見を出していただきたいと思います。

指導・助言者として、3人の先生方をお招きしていますので、この機会に、指導力向上にむけた助言をお受けすることができれば、この会が有意義なものとなります。

よりよいものを生み出していくために、一人一人が主体的に参加していきましょう。

## 年度末報告会をもとに、授業改善の進化を(ねらい) ※確認

「年度末報告会」を行うねらいについて確認します。ねらいは、次の3つになります。

- ① 情報共有による授業改善の進化
- ② 自己実践評価による授業改善の進化
- ③ 来年度の授業改善の方向性の明確化

本年度の主題研究は、近接学年というチームで授業づくりを行ってきました。公開授業と日常授業参観指導を通して、成果と課題が少しずつ明らかになり、夏休みに行った中間報告会では、それぞれの成果と課題を発信し合い、共有していくことで、2学期以降の授業づくりに生かしていくことができました。そこで、平成23年度末を迎えるこの時期に、1年間の授業改善についてお互いの情報を共有し評価し合うことで、さらなる進化をめざしていきましょう。

中間報告会の際にも述べましたが、「年度末報告会」で発信していく内容を検討していくことは、1年間に行った実践を自ら評価していくこととなります。自分の指導のよさと改善点を分析していくことで、来年度の授業改善の方策をより明確にしていきましょう。評価は、「基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用を図る学習指導」という本年度の研究テーマをもとに行っていきます。さらに、21日に行った提案授業の授業整理会で協議した「子どもの目が輝く授業」「聴き合い・語り合い」というキーワードをもとに、自分たちの実践をふり返っていくことも、来年度の方向性を具体化していくことにつながっていきます。子どもたちの目が輝く授業をつくり出していくために、1年間で学んだアイデアを出し合い、よさを取り入れていきましょう。

## 具体的な子どもの姿と手だてを発信（内容）※確認

年度末報告会では、それぞれの部会から実践報告をしてもらいます。では、その内容は、どのようなものになるでしょうか。

まずは、中間報告会における各部会の成果と課題をふり返ってみましょう。そこでの成果と課題をもとに、2学期以降の実践が積み重ねられてきたのです。その過程で基礎的・基本的な知識・技能を活用する（習得する）子ども姿を見取ることができました。その子どもの姿を具体的に示し、「なぜその姿を生み出すことができたのか」有効だった手だてを発信していきましょう。

また、十分に達成できなかった子どもの姿も示し、その要因と改善策も発信していくことも大切です。そのことが来年度の方向性を明確にしていきます。

授業整理会で、講師の先生や管理職の先生方から指導・助言していただくことを、自分たちの言葉で発信していけば、よりわかりやすく価値のある報告になるでしょう。

2学期以降の授業づくりのキーワードは、「聴き合い・語り合い」でした。これは、来年度の研究には欠かせないものとなります。

2月の提案授業の授業整理会では、KJ法を取り入れ、その具体化をすすめていくことができました。しかし、まだ共通理解するまでには至っていません。今回の年度末報告会を、「聴き合い・語り合い」の具体化をさらに深める機会としてきましょう。



授業改善の手  
だてを継続・進  
化させていき  
ましょう。

## 久原小学校ならではのイノベーション

本年度の研究推進のキーワードは、「イノベーション」でした。年度初めに、山崎教頭先生からご指導いただいたように、チーム力を発揮していったことで、授業づくりや学級集団づくり、学び方の指導において、技術革新がすすんでいきました。

これを違う視点から見ると、先生方が国語や算数の学習指導を極めてきていることになります。また、これは、子どもたちの学力向上にしっかりとつながってきています。

このような研修を行うことができたのは、よりよい授業をつくり出していくために、日々研修を重ねてきた先生方

の真摯な姿勢が個の指導力を高め、チーム力を高めてきたのです。

この1年間をふり返ると、久原小学校の研究の内容と方法は、着実に進化してきました。当然、先生方一人一人の指導力が向上してきたことは言うまでもありません。私も算数が専門ですが、この1年間の研修で、国語の指導力が確実に向上したと感じています。

今まで不十分だった教科の指導力が向上していくことも「イノベーション（技術革新）」ととらえてもよいのではないのでしょうか。これからも 久原小学校ならではの「イノベーション」を生み出していきます。

## 平成24年度の研究テーマは、子どもの目の輝き

平成24年度の研究テーマを次のように提案していました。

子どもの目が輝く学習の創造  
～聴き合い・語り合い活動を中心に～

このようなテーマは、教科の独自性からみると広くて曖昧な概念となります。しかし、久原小学校全体としてめざしている授業は、「子どもの目が輝く授業」「聴き合い・語り合い」

です。国語と算数の学習において、子どもの目が輝く姿をより多く生み出すことができれば、必然的に学力の向上につながっていくことになります。「目が輝いている子どもとは、具体的にどんな姿のことを表しているのか」という視点から改めて、国語と算数の授業をふり返ることが、今この時期に大切なこととなります。